



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第37号(R5. 11. 14)

陸上部の快進撃は続く！ 女子駅伝福岡県大会で3位入賞！ 男子駅伝福岡県大会で準優勝！ ～九州大会へ進出！

11月11日(土)、前日の雨がやみ秋晴の下、北九州市本城公園周回コースで行われた駅伝競走県大会。まず、女子が第3位に見事入賞しました。その後に行われた男子の大会では準優勝を飾り、九州大会への切符を手に入れました。また、アンカーの橋本隆太郎さんは大会新記録をマークし区間賞を受賞しました。九州大会は、12月2日(土)熊本県天草市の「あましんスタジアム」(天草市陸上競技場)で開催されます。

8年生の西端湊美さん、全国ジュニア・ラグビー大会に出場決定！

8年6組の西端湊美さんは、玄海ジュニアラグビークラブに所属して練習に励んでいます。

先日、福岡県ラグビーフットボール協会から連絡があり、来月23日(土)24日(日)に東京都夢の島競技場・江戸川区陸上競技場で開催される第29回全国ジュニア・ラグビーフットボール大会に選抜されたとのこと。みんなで応援しましょう。

授業研修の風景

前号でもお伝えしたように、かとう学園の授業は対話活動と振り返り活動に研究の重点を置いています。今後さらに、学園の授業では来年度開催される研究発表会を見すえ、「自己決定を軸とした授業づくり」にも力を注いでいきます。

池邊先生(社会)

11月1日(水)7年3組で行われた池邊先生による社会科の公開授業。南アメリカ州の学習です。現在のブラジルを考えることは地球環境問題のエポックでもあります。



開発か環境保全かはブラジルに限らず、全地球的な問題です。この問題を5つの選択肢から課題解決を考え、理由付けを行って自己決定するというテーマの授業です。実現可能か、持続可能かということもふまえながら、開発と保全の両立を提案するアイデアがグループ討議によって生み出されていきました。難しい課題を最後まで考え抜いていました。

鳥井先生(社会)

11月7日(火)けやき学級で行われた鳥井先生による社会科の公開授業。地理的分野の東北地方で、伝統的工芸品を調べる授業が行われました。

東北地方では、森林資源や鉱産資源を活かした伝統工芸がさかんです。樺細工や津軽塗、南部鉄器や曲げわっぱなど。タブレットを使ってネット上で公開されている工芸品について、生産場所や製品の特徴がパソコン上のワークシートにまとめられていきました。自然環境と産業が作業をしながらつかめる授業でした。



「成功とは情熱を失わずに失敗を重ね続けることである」

～世界で最も尊敬され人気のある人物の生涯～

河東中では、2週間後に生徒会役員選挙があります。今年も生徒会執行部の7つのポストにたくさんの7・8年生が立候補してくれています。毎年、立会演説会では、立候補者や応援者が演台で700人を前に立派な演説をするので頼もしく思うとともに感心しています。河東中では選挙の当落はありますが、すべての立候補者は河東中の未来のために勇気を込めて出馬してくれた勇者と考えています。28日の立会演説会では、近未来の河東中像が聞かれることを楽しみにしましょう。

さて、選挙のたびに思い出す人物がいます。アメリカの選挙で7回も落選し、事業の失敗で15年間も借金に追われた人物です。しかし、アメリカの中学生を含む子どもたちに「最も尊敬する人」というアンケートを取れば、必ず1位になり日本でも世界の偉人の中で出版部数が一番多い人物です。

アメリカの新聞にかつてこういう記事が出ました。

「もしあなたが、落ち込むことがあったら、この人のことを思い出してほしい。彼は小学校を中退した。田舎の雑貨屋を営んだ。破産した。借金を返すのに15年かかった。26歳の時、婚約者を病気で亡くした。下院に立候補。2回落選。上院に立候補。2回落選。歴史に残る演説をぶった。が、聴衆は無関心。新聞には毎日たたかれ、国の半分からは嫌われた。こんな有様にもかかわらず、想像してほしい。世界中いたるところで、どんなに多くの人々が、この不器用で、不細工な者に、啓発されたことかを。

彼は自分の名前を、こうサインしていた。エイブラハム・リンカーン」

リンカーンがいまだに世界中で尊敬され愛されるのはなぜかと考えると、タイトルにあげた彼の言葉にあるように、数々の失敗や不幸にめげなかったからでしょう。

ちなみに、この新聞記事に出てくる「歴史に残る演説」とは、今から160年前の1863年にリンカーンが、南北戦争の転換点になったゲティスバーグで行った演説でした。

「人民の、人民による、人民のための政治」というフレーズで有名な演説です。彼の前に演説したエヴァレットは当代一の雄弁家で知られ、この日も身振り手振りで3万人の聴衆を熱狂させ、時間は2時間を超えていました。次に立ったリンカーンは2分を少し超えるものでした。マイクのない時代です。短い演説が終わると、会場には失望感が漂い、拍手さえなかったと言われます。リンカーンも失敗した、と顔をしかめて、その場を去りました。当時のマスコミも、その直後は「見当違いで内容にとぼしい」と批判的でした。しかし、この演説の偉大さを最初に評価したのは直前にしゃべったエヴァレットで、演説が終わるとリンカーンの手を握って「あなたは私が2時間かけて言いたかったことをわずか2分で言ってしまった」とほめたたえました。演説は、やがて北部だけでなく南部の人々にも浸透し、広く支持され、今ではアメリカだけでなく多くの国の教科書に掲載されています。



リンカーンの人生は失敗の連続でした。途方もない回数の失敗でした。彼は、決して万能の人ではありません。また間違いのなかった人でもありません。彼の政治的判断は、今では間違いだとされるものもあります。それでも、彼が合衆国歴代の大統領として、群を抜いて高い支持を得て、今でも愛されているのはどうしてでしょうか。「奴隷解放令」など輝かしい歴史的業績もちろんあります。しかし、彼には素晴らしい人間的魅力があったからだと思います。彼は、若いうちから生涯を通して「正直で誠実」と言われました。自分にうそをつけない人でした。またたくさんの失敗や困難から逃げずに、これを引き受け、乗り越えていった「心の強さ」と「行動力」を持っていました。そして何よりも、彼が多くの人の苦しみや悲しさに共感できる「優しい心」の持ち主であったことも大きな魅力でした。

リンカーンは、何度も転びました。そのたびに立ち上がりました。立ち上がる姿で、周囲に勇気と希望を与える人でした。ある人がリンカーンに向かって「あれが大統領か。実に平凡な姿だな」と言いました。彼は笑って、こう返したそうです。「その通りだよ。神様は平凡な人が好きなのだ。だから平凡な人を、たくさん、つくられたのだ。」